


**研究者総覧：松岡 光治 (MATSUOKA, Mitsuharu)**

氏名	松岡 光治 (MATSUOKA, Mitsuharu)	
職名	教授	
所属講座	国際多元文化専攻ヨーロッパ言語文化講座	
学位（専攻分野）	MPhil (English and American Studies) University of Manchester	
メールアドレス	<a href="mailto:matsuoka@nagoya-u.jp">matsuoka@nagoya-u.jp</a>	
個人のホームページ	<a href="http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~matsuoka/">http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~matsuoka/</a>	
研究分野	十九世紀イギリス文学	
	ヴィクトリア朝文化史	
	翻訳技術論	
現在の研究テーマ	英文学に見られる暴力（特に脅迫）の言説研究	
所属学会	日本ヴィクトリア朝文化研究学会	
	ディケンズ・フェロウシップ日本支部	
	日本ギヤスケル協会	
主要著書・論文	<i>Evil and Its Variations in the Works of Elizabeth Gaskell</i> . Ed. Mitsuharu Matsuoka (編著、科研費助成出版、大阪教育図書、563 頁、2015 年)	
	“Bedham Revisited: Dickens and Notions of Madness.” <i>The Dickensian</i> . The Dickens Fellowship (London). 109.3 (Winter 2013): 225-39.	
	『ディケンズ文学における暴力とその変奏——生誕二百年記念』（編著、大阪教育図書、xii+288 頁、2012 年）	
	『ギヤスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化——生誕二百年記念』（編著、科研費助成出版、溪水社、720 頁、2010 年）	
	『ギッシングを通して見る後期ヴィクトリア朝の社会と文化——生誕百五十年記念』（編著、科研費助成出版、溪水社、553 頁、2007 年）	
自己紹介文	私の専門分野は 19 世紀イギリス文学で、特にディケンズ、ギヤスケル、コリンズ、ギッシング（右図は生誕 150 年記念の本）に関心があります。詳しいことは、私が制作した各作家のホームページを御覧ください。そこでは、世界中で利用できるように作成したコンコードダンスや電子テキスト、その他、いろいろな情報を公開しています。上に挙げた作家たちは、ヴィクトリア朝の繁栄が実体から遊離した幻想にすぎないこと、そして繁栄の表面下に隠された過酷な現実や忍び寄る危機的情况を察知していた人たちです。19 世紀イギリスのヴィクトリア朝社会は、それを投影している現代の日本（戦後の日本が歩んだ復興からバブルとその崩壊への道は、産業革命後の	

	<p>ヴィクトリア朝の大好況期とその没落の投影)に生きる我々に多くのことを教えてくれます。当時の英国社会を考察することは、日本の現代社会を是正する上で非常に有益なものです。しばらく私の関心が他に移ることはあっても、ヴィクトリア朝の作家研究がライフワークになることは間違いありません。50歳台半ばとなり、既視感と未視感が入り交じり始め、周囲の人に迷惑をかけているようですが、既視感も未視感も複雑な現代社会を生き抜くための自己欺瞞的な戦略だと思い、人目を気にせず思いのままに振る舞っています。ただ、体力の衰えには抵抗したいので、隔日で(自己欺瞞で間隔を空けることは確実にありますが)6キロほどジョギングをしています。</p>	 <p>編著 (大阪教育図書、2012年)</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>ヨーロッパの都市文化に関心があり、前期課程に合格した学生は、私の指導の対象学生として基本的に受け入れますが、学生の専門分野によっては、他の先生が指導教員となる場合もあります。後期課程の場合(特に博士論文を執筆する学生の場合)は、英文学専攻の学生、英文学を通して都市文化を考察しようとする学生、イギリスの都市とその文化を論じたい学生を対象とします。専門の領域と関心の対象が私に近い学生ほど、指導が行き届くことは言うまでもありません。授業では「ヨーロッパ都市文化論」を担当していますが、これは英語高専人コースの学生には「翻訳技術演習」として開講されており、大学や高等教育機関の英語教員として役立つ読解力を養成しています。担当者には、英文法と前後関係を翻訳という車の両輪と考え、まだ日本語に訳されていないヴィクトリア朝の小説を精読(と同時に速読)してもらい、当時の社会と文化のキー</p>	 <p>編訳 (岩波文庫、2000年)</p>

	<p>ワードを詳しく調べて発表してもらいます。これらの作業は論文を書くための基礎となりますが、大学院生として最も大切なのは、そうした作業の成果を料理するのに必要な独自のアプローチや視点という包丁を手に入れることです。そのためには授業と関連する分野で、そして自分に関心のある領域で、できるだけ多くの文献を（こちらは時間の関係で翻訳を利用して構いませんが）渉猟してください。一芸に秀でさえすれば、不況による就職難も恐れることはありません。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Last updated: 30 May 2015.